

2-5. 天谷家住宅

1) 天谷家の概要

天谷家はレジストロにおいて製茶業で成功をおさめた一家として知られている。ここでは、聞き取りと『イグアッペ植民地開拓五拾周年記念』¹⁾の記載内容をもとに天谷家の家系図を作成し（図 2-5-2）、概要について記す。

天谷リンコン氏の叔父にあたる捨吉と妻のなをは、1919（大正 8）年に北海道十津川村より渡伯。夫妻には 3 人の子供がおり、長男のサジオは医師に、次男の平三郎と三男の福治は、レジストロで天谷兄弟農場を経営し製茶を生業としていた。福治には 2 人の子供がおり、彼の長男であるリンコンが所有する住宅が今回の調査対象である。

捨吉の口伝によれば、天谷家住宅は製茶業を営んでいた山口シンスケ氏の作業場兼住まいとして 1930（昭和 5）年に竣工。その後、サトウキビ栽培を行っていたブラジル人のアントニオ・サルバ氏の手に移り、1947 年頃に天谷家で購入した。ちなみに「その 2 天谷邸の現状と推定復元について」²⁾（本書 2 章 6 節）で取り上げた住宅は、当初は捨吉の住まいであった。



図 2-5-1 天谷家住宅 北側外観

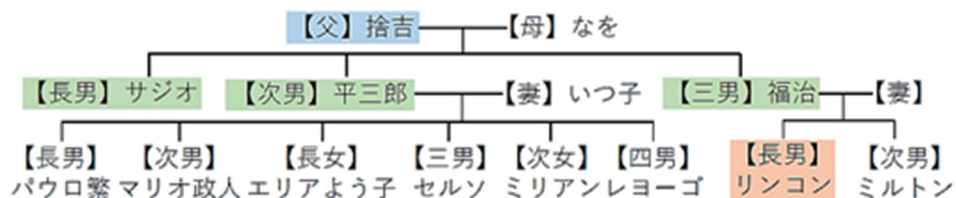


図 2-5-2 聞き取りによる天谷家の家系図

¹⁾ 松村俊明『イグアッペ植民地開拓五拾周年記念』レジストロ連合青年会 1963 年 12 月

²⁾ 拙稿「その 2 天谷邸の現状と推定復元について」『日本建築学会北海道支部 第 91 回研究発表会』pp.405～408、2018 年 6 月

2) 天谷家住宅の特徴

聞き取り調査より、天谷家住宅の建設に携わった大工は南保外吉、左官はモロタエンヤとされている。

天谷家住宅は、天谷捨吉家とは約1 km離れた隣の敷地内に建設された。ちなみに、天谷捨吉家住宅の建設に従事した大工も南保外吉で、天谷家から北へ約5 kmのところ敷地があった(図2-5-3)。

ここでは、天谷家住宅については実測調査に基づき現状図面を作成した(図2-5-4)。



図 2-5-3 天谷家住宅の位置図

(※黄は天谷家、赤は天谷捨吉家、青は南保外吉(大工)、緑点線内は植民地外を示す。)

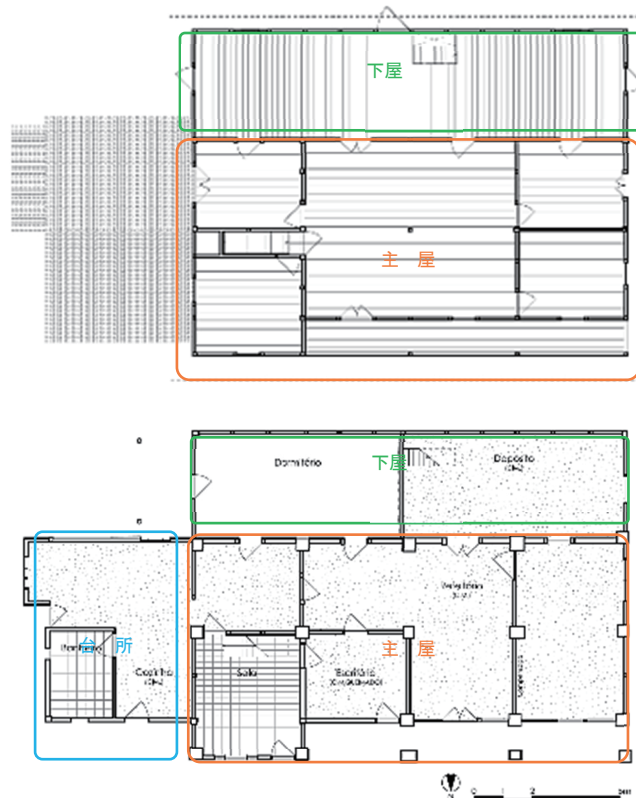


図 2-5-4 天谷家住宅現状図面(1・2階平面図、断面図)

以下、聞き取りや痕跡調査などから改変箇所などの状況を踏まえ、建物の特徴について解説する。なお、名称については本稿で便宜的に名付けたものである。

主屋は間口約7.3m×桁行約14.7mの木造2階建て、和小屋の寄棟屋根にフランス瓦が葺かれている。1階の柱は煉瓦だが他の軸部は木造で、壁は土壁を基本とし漆喰仕上げで、2階のベランダには吉祥を表現した鍔絵がある。

1階は5つの部屋があり、タイルが張られた居室以外の床はモルタルによる土間となっている。2階は中央広間の両脇に居室が2部屋ずつ接し、北側にはベランダがある。

各階とも主要な居室には後補材による天井が張られており、天井高は1階が約2.3m、2階が約2.9mとなっている。

主屋の南側には幅約3.7mの下屋があり、2階から南側の屋外作業スペースに出入りすることができる。ただ、下屋は2階の床形状とコーナー柱脚部の形状(写真2-5-5)に加え、主屋と接する開口部には外部に設けられる板戸が建てこまれている(写真2-5-6)ことから、増築されたと判断できる。また主屋の東側には井戸が設けられていたが、現在は台所となっている場所も聞き取りから増改築された範囲であることを確認した。

従って、煉瓦柱のある主屋が当初の建物³⁾で、1階は床の納まりと天井高から判断して倉庫として使われ、2階が居住空間であったと考えられる。ただ、主屋の柱には、ほぞ穴の痕跡が確認できたことや当初の所有者が異なることを踏まえれば、部材や建物の一部は転用されている可能性が高いと推察される。



図 2-5-5 下屋コーナー部の柱脚



図 2-5-6 板戸が建てこまれている
主屋の開口部

3) まとめと考察

総じて、天谷家住宅は日本人大工南保の手による日系移民住宅であり、現在も天谷家の子孫によって住み継がれている。住宅は2階建てで、北側にベランダを配し、主屋と考えられる部分の1部分は2階に比べて天井高が低く造られていることが読み取れた。こうした傾向は、明治村に移築された久保田家住宅等に共通する傾向として特筆される。

また、実測および聞き取り調査から、南側の納屋部分は後から増築されたことを、柱や開口部の特徴、痕跡などから判明した推察を含めて指摘した。この点を鑑みれば、当初建設された主屋は、レジストロの日系移民住宅の第二期に位置づけられるものとして捉えることができる。なお、同移民住宅の最初期から第二期にかけて形態的変遷については本書第5章まとめにおいて詳述する通りである。

³⁾ バルコニーを支える柱は木造であったものを煉瓦に変更していることは聞き取りで確認した。